視点の密度

深みは、量ではなく、圧で決まる。

知識が多いと、賢く見える。
経験が多いと、豊かに見える。

だが、それは深さではない。

同じ出来事の前で、
横に広がる人と、
一点に沈む人がいる。

違いは、持っているものではない。
視点が、どこで止まるかだ。

視点の多さは、深みではない。

角度を増やせることも、
複雑さを語れることも、
両方を残せることも。

それは広がりであって、
沈みではない。

深みは、並べても増えない。

密度は、増えない。

逃がさなかったものが、
そのまま残る。

違和感を外に出さず、
言葉に渡さず、
結論に触れさせないまま、

内部で、止める。

進めない。
終わらせない。

同じ一点を、
抜けないまま持ち続ける。

それだけで、圧が変わる。

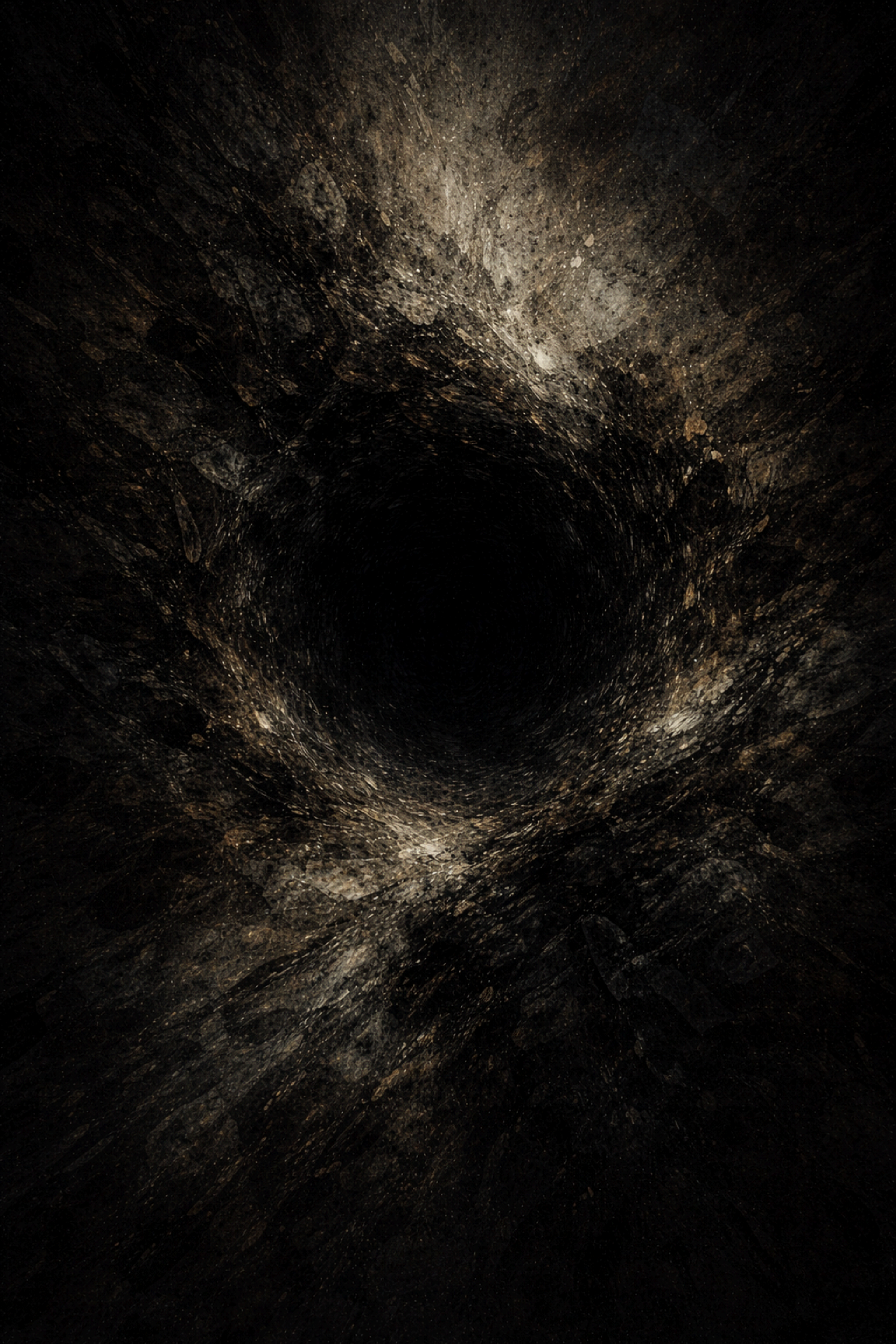
多くは、流す。
少数は、止める。

前者は軽くなる。
後者は、残る。

違いは、見え方ではない。
内部で、何が終わっていないか。

深みは、集めたものではなく、
終わらなかったものの密度だ。

深さは、終わらせなかったもので決まる。



Edition — 存在の芯
別景：視点の密度

著者：美学思想家 古川玲奈
発行：Raffiné
2026